

# 千葉県・千葉市教員等育成指標（案）

資料⑤

## 目標 信頼される質の高い教員の育成を目指して

「千葉県の教育の振興に関する大綱」「千葉市の教育に関する大綱」及び  
第2期千葉県教育振興基本計画「新 みんなで取り組む『教育立県ちば』プラン」より

四つの柱	構成要素	養成段階	千葉県・千葉市が求める教員像	ステージⅠ 【成長期】 (学級経営、担当教科指導等) 学級・教科担任等としての 自覚と資質能力の向上	ステージⅡ 【発展期】 (学年経営、校務分掌主任等の ミドルリーダー) ミドルリーダーとしての 自覚と資質能力の向上	ステージⅢ 【充実期】 (学校運営等、職員全体へ 指導・助言) チーム学校をリードする 自覚と資質能力の向上
教職に必要な素養	使命感、責任感、教育的愛情 高い倫理観、服務規律の遵守	教職の意義 教員の役割 教職への意欲 課せられる義務等	教育実習・ちば！教職たまごプロジェクト 【指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を理解する】	教員としての職務に対する使命感、責任感、教育的愛情をもち、教職に対する強い情熱をもっている。また、教育公務員として高い倫理観をもち、服務規律を遵守し、公正に職務を遂行している。		
	社会性 コミュニケーション能力	大学等における講義・演習等を通して、広い視野、教養等を身に付けるとともに、学び続ける意欲やコミュニケーション能力を育む。		社会性、コミュニケーション能力等を備え、職務に応じて積極的に他の教職員と協働し、幼児児童生徒、保護者、地域等と関わっている。		
	広い視野と学び続ける意欲 社会の変化への対応	教育の理念、歴史、思想的・社会的・制度的・経営的事項等について基礎的知識（選択）		広い視野をもち、教員としての資質能力の向上のため、研究と修養に努め、新たに必要とされる知識や技能を取り入れ、実践にあたっている。		
	教職に関する教養	学習指導要領、幼稚園教育要領に示された教科領域の目標、ねらい、内容		教育に関し、社会的・制度的事項やその意義、歴史等について理解するとともに、最新の動向に関し情報収集に努めている。		
学習実践的指導力	教科等についての専門性	基礎的な学習指導理論や発達や学びの過程指導技術 具体的な授業設計や保育を構想する方法	○人間性豊かで、教育愛と使命感に満ちた教員	教科等に関する専門性を生かした授業を展開し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努めている。		
	授業実践、指導技術	特別な支援を必要とする幼児児童生徒への学習上の支援	○高い倫理観を持ち、心身共に健康で、明朗、快活な教員	地域や幼児児童生徒の実態を把握し、問題解決的な学習過程を展開するとともに、単元など内容や時間のまとまりの中で、習得・活用・探究のバランスを工夫し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努めている。		
	幼児児童生徒理解と信頼関係の構築・指導	教育相談・個別指導	○幅広い教養と学習指導の専門性を身に付けた教員	特別な支援を必要とする幼児児童生徒についてその状況を把握し、家庭や他の教職員、関係機関等と連携しながら、個別に学習上の支援の工夫を行っている。		
生徒実践的指導力	特別な支援を必要とする幼児児童生徒の理解と生活上の支援	人権教育の推進 問題行動等への対応	○幼児児童生徒の成長と発達を理解し、悩みや思いを受け止め、支援できる教員	幼児児童生徒の心身の発達の特徴や現在の状況等を理解するとともに、幼児等との信頼関係を構築し、学級経営をはじめ、集団の掌握・適切な指導を行っている。		
	人権教育の推進 問題行動等への対応	進路指導・キャリア教育	○組織の一員としての責任感と協調性を持ち、互いに高め合う教員	幼児児童生徒一人一人の課題の解決に向け、個々の悩みや思いを共感的に受け止め、園・学校生活への適応や人格の成長への援助を図っている。		
	進路指導・キャリア教育	教育課程の管理・運用		特別な支援を必要とする幼児児童生徒の個々の状況を理解するとともに、家庭や他の教職員、関係機関等と連携しながら、その状況に応じた生活上の支援を行っている。		
	教育課程の管理・運用	校務分掌と連携・調整		人権教育の理念のもと、いじめ、不登校、情報モラル等生徒指導上の課題に対し、家庭、他の教職員、関係機関等との連携を図りながら、幼児児童生徒に対し適切な指導を行っている。		
チーム学校を支える資質能力	校務分掌と連携・調整	家庭や地域社会、関係機関との連携、協働		幼児児童生徒の自己実現の視点に立った授業展開、体験活動、ガイダンスとカウンセリングの充実に努めている。		
	家庭や地域社会、関係機関との連携、協働	研修（研究）体制		各学校で編成される教育課程を確実に実施するとともに、カリキュラム・マネジメントの視点から常に見直し、学校の実態に応じた教育課程に改善しようとしている。また、特別な支援を必要とする幼児児童生徒の教育課程の編成について適切な対応に努めている。		
	研修（研究）体制			組織の一員として学校運営を支える力となり、自分の役割を責任をもって、積極的に果たしている。		
				家庭や地域社会、関係機関との連携、協働に努め、地域とともに歩む学校づくりに取り組んでいる。		
				研修（研究）における成果と課題を把握し、教員としての資質能力の向上を図るために必要な研究と修養に努めるとともに、校内研修体制づくりに取り組んでいる。		